

# ひかりのこ

5月園便り

認定こども園  
聖ミカエル幼稚園  
2024年4月19日

月主題：うごきだす

## 「愛され、守られ、受け継がれる」

4月10日(水)の入園式が終わり、11日からは、新入園のお友達が、おうちの人から離れ、先生とお友達と生活を始めました。

まだ玄関で「エーン、エーン、幼稚園やだよー」と泣くお子さんも何人か見られますが、担任の先生が「おいで」と手を伸ばすと、自分から抱っこされます。お部屋に入ると泣くのをやめて、担任の先生のそばで遊び始めるのです。少しずつクラスが居心地の良い場所になっているようです。

乳児のお子さんは、4月1日から来ているせいか、今ではみんな安心して保育室で遊んでいます。

そして素敵なのは、新入園のお子さんだけではありません。新しい年長中のお兄さんお姉さんも素敵です。泣いている子や、お部屋に入れられない子を気にかけて、そばにいてくれたり、お迎えに行ったりしています。

あるクラスでは、すずらんさん(年長さん)が4人で集まってテーブルのお片付けをしていました。チームワークがとてもよく、安心して見ていられます。あとで、一人に「先生に教えてもらったの?」ときくと、「違うよ。前のすずらんさんが教えてくれたんだ。」と、すずらんさんだもの、そんなの当たり前、という表情です。

送迎バスでも、新しい子のお世話を率先しているすずらんさん。「去年まで、玄関で泣いていた子なのになあ。」と、嬉しく感じます。

今まで、先生やお兄さんお姉さんに愛され、守られていたから、同じように小さい子を大切にできる。毎年みられるミカエルのとても素敵な光景です。

外はいいよ春。園庭にも力強くこいのぼりが泳いでいます。わくわくする春がやってきました。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「手」

子ども達が、手遊びやボール遊び、工作やボルダリングなど、手を使って色々なことができる姿を見て、日々彼らの成長を感じます。緊張して親の手を離さなかった子たちが、成長と共にその手を使ってモノに触れ、人に触れ、自分の外の世界を知っていくようになっていきます。世界にある様々なことに関心がある幼少期は、子ども達の手が心の動きと共に休むことなく動いている気がします。

この時期に、触ってはいけないもの、自分や周りの人が怪我をしないよう気を付けなくてはいけないことも覚えていきます。マナーという言葉はラテン語の「手(manus)」という言葉から生まれました。手を上手に使えるようになるのは、体の成長だけでなく、集団生活の中で大切なことだということは世界の共通認識なのですね。

教会では、お祈りの時に手を合わせて祈ります。手のひらを合わせ、目を閉じる姿は神の御前にかしこまる礼の姿勢です。両手がふさがっているので、周りのモノを気にして触れることもありません。子ども達が目を閉じて、目に見えない神さまを思って静かにお祈りする姿は、誰の目にも尊いものです。

チャプレン 司祭 上平 更

